

# Istanbul Weekly vol.1-no.3

## イスタンブールウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2012年11月2日（金）

### — 今週のポイント —

1. 政治：大都市自治体法案の改正。  
トルコ共和国建国89周年。
2. 経済：中央銀行の外貨準備高が市場最高。  
株式市場が最高値を記録。
3. 治安：2件の音響爆弾が爆発。  
小規模な地震発生。
4. 社会：イスタンブール市が勤務時間の変更。  
タクシム広場の歩行者専用道路化プロジェクト等交通事情。

#### 1. 政治

##### ●MHP 党首選挙

11月4日にMHPの党首選挙が実施予定。現行のバフチェリ党首が再選される見込み（10月18日付H紙）

##### ●新自治体改正法案が国会内務委員会通過

10月21日、新たに13の市が大都市に改変する法案が、野党CHP及びMHPの反対もあったが、国会内務委員会を通過。法案では、新たな「district」は大都市と52の大都市ではない都市により構成される。2000人以下の1582の町は廃止され、18,200の村がdistrictsに格上げされ、75万人以上の都市は「大都市」となる。さらに、「大都市」周辺地域境はprovinceに拡大され、与党AKPが伝統的に根強い地方の投票者が「大都市」市長等の選挙で投票できるようになる。現在16ある「大都市」の内、AKP選出市長10名、CHP選出市長4名、MHP選出市長1名、BDP選出市長1名（10月23日付HDN）。

##### ●大都市自治体法案の改正

国会で審議中の大都市自治体改正法案においては、現在シシリー市の管轄下にあるマスラック、アヤザー、フズルの諸地区がサルエル市に移行すると案がAKP議員により提出された。これにより、2011年6月の総選挙でサルエル市でCHP票がAKP票より2800票差多かったのが、同総選挙の際にAKPがCHPに9千票近く差をつけたアヤザーを含む3地区が新たにサルエル市に加わることで、今後の地方選挙ではサルエル市がAKP票に傾くことが予想されている。ゲンチ・サルエル市長（CHP）は、サルエル市の経済波及効果があると肯定的にコメントする一方、シシリー市長（CHP）は、こうした変更は認められるべきではないと反発。CHP間で意見が分かれている（10月18日付M紙）。

##### ●BDP党首、「PKKを止められるのはオジャランだけ」

トルコ語のみの母語教育や、オジャランPKK元首領からの断絶状態に抗議する目的で、トルコ全国43カ所の刑務所で拘留中のPKKメンバー433名はハンガーストライキを開始して以来39日目を迎えた。デミルタシュBDP党首は、ディヤルバクルの記者会見で、「PKKを止めることができるのは、軍隊ではなく、オジャランのみである」と発言（10

月19日付M紙）。

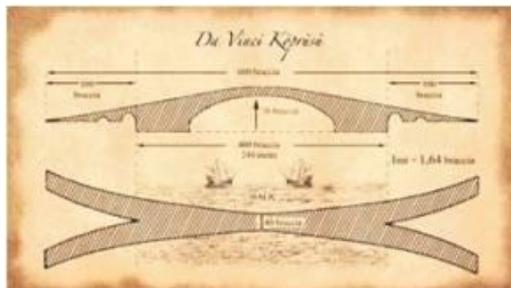
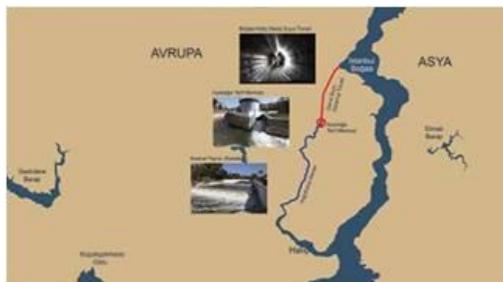
##### ●シリア機強制着陸事件

ワシントンポスト紙に掲載された米国政府関係者は、先日アンカラのエセンボア空港に強制着陸させられたモスクワ発シリア行民間航空機事件では、トルコの米国防協力によってCIAから情報がもたらされたこと、また、この協力関係はシリア国内紛争が地域的な戦争に拡大することを懸念してすすめられていることなどと発言（10月22日付H紙）。

##### ●金角湾浄化プロジェクト

エルドアン首相がイスタンブール市長時代の1995年に計画・開始した金角湾プロジェクトにより、21日、金閣湾にボスフォラス海峡の海水が注入開始。ボスフォラス海峡の海水は、サルエル地区とアヤザー地区間の5kmのトンネルを通過し、その後9kmのキャウットハーネ川を経た後に金角湾に注ぐ。プロジェクト開始式でスピーチしたエルドアン首相は、レオナルド・ダヴィンチが1502年に金角湾のために設計した橋も近く建設される予定と発言。これにより、26万m<sup>3</sup>/日の海水が金角湾に注がれ、金角湾の海水は年3回入れ替わる計算。現在は48種類の魚類が生息。（10月22日付HT紙、H紙、M紙）。

注：レオナルド・ダヴィンチの橋計画：1502年、当時のスルタン、ベヤズット2世の時代、金角湾用にダヴィンチが橋（長さ240m、幅24m）を設計したが、当時の建設技術では不可能なことが判明し実現しなかった。



### ●ヴァン地震被災者用の住宅完成

昨年10月23日に発生したヴァン地震（震度7.2）被災者用に、地震の39日後に集合住宅局（TOKİ）により建設が開始された被災者用住宅が完成し、住宅の鍵が住人に渡される。15,341戸の1戸あたりの住宅価格は、7万5千リラ。最初の2年間は支払いは延期され、その後20年間で無利子返済（10月23日付M紙）。

### ●トルコの報道の自由は危機的状況

ジャーナリストを守る委員会（CPJ）の発表した報告書によると、報道の自由に関して、トルコで刑務所に拘留中の報道関係者数は76名（うち7割はクルド人、2012年8月1日現在）。また、世界的にはイラン、エルドリアに次いでトルコでの拘留者数は多く危機的状況にあり、トルコが果たしている世界的・地域的パワー、経済成長、政治的成功の一方で、報道、情報、思想等の権利についてもそれに見合うものになる必要があるとしている（10月22、23日付HDN紙、H紙）。

### ●宗務庁の来年度予算が増額

宗務庁の今年度予算額は38億9100万リラに対し、来年度予算額は46億400万リラになると発表（△18%増）。宗務庁の予算額と比較して、内務省、保健省、外務省等11省は予算額は小さい（10月23日付H紙）。

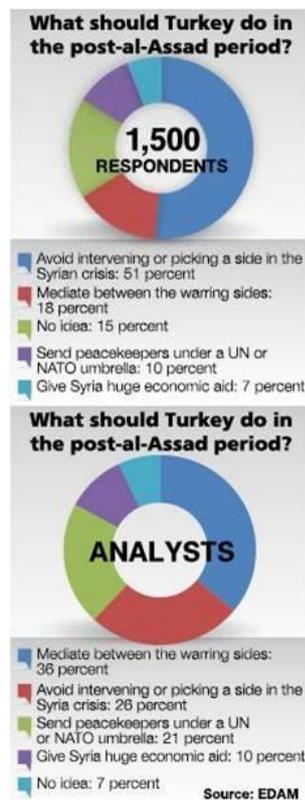
【注】宗務庁：1924年に設置された首相府直轄の組織。イスラムの信仰、礼拝、道徳観等に関する事項を始めとして、宗教に関する社会啓蒙、礼拝所の運営を担う。政治的思想に関与せず、国民の連帯と統一を目的とし、特別法により運営されている。モスクのイマームやアザーンを唱える人々は宗務庁に属する国家公務員。

### ●シリア反体制派に初めての給与支給

シリア反体制派メンバーらに対し、2年近い闘争の中で初めて給与が支給。反体制派メンバーがAFPに語ったところでは、兵士1名当たり支給額は150米ドル。給与の資金源は、トルコ、湾岸諸国、イスラム諸国等の外国政府。今後は前線兵士、既婚者には増額支給が検討される予定（10月23日付M紙）。

### ●トルコ世論調査：シリア問題への介入

経済外交政策センター（EDAM）が実施した最新の世論調査（18県、1500名対象）では、回答者の内51%は、トルコはアサド政権後のシリアに対して「介入すべきではない」、「一部介入に留めるべき」と回答。「ポスト・アサド政権におけるトルコの役割」については、18%がトルコが諸反体制派の調停役、7%はトルコのシリア経済支援を支持（10月22日付HDN紙）。



### ●トルコ共和国建国89周年記念行事

トルコ共和国建国から89周年目を迎えた10月29日、アンカラのチャンカヤにある大統領公邸において祝賀レセプション開催。政治家を始めとする文民と軍人（配偶者含む）あわせて合計2500名が招待された。過去10年において軍人は、別途屋に開催のレセプションに出席していたが、今回は文民と軍人が一堂に会した。エルドアン首相は初めて夫人帯同で出席し「これまで（スカーフを被った我々を）中にいれなかった人々は恥を知りなさい」と報道陣に発言。野党から、バフチェリ MHP 党首が出席、クルチダルオール CHP 党首及びデミルタシュ BDP 党首は欠席。また、イスタンブール、イズミル等の各都市では記念祝賀行事が開催され、イスタンブールでは4万6000発の花火がボスフォラス海峡を彩った。アンカラでは、記念祝賀行進を行う人々を警察がバリケードで止めたことで衝突が発生したが、途中バリケードは取り除かれ、最終的に一行はアタトゥルク廟になだれこみ、例年通り建国記念日を祝った（10月30日付M紙）。

### ●ギュル大統領とエルドアン首相の「両頭体制」論争

10月29日、アンカラで建国89周年祝賀のためにアタテュルク廟に向かおうとした市民を警察がバリケードで阻止したが、市民との間で小競り合いが生じるとバリケードが途中で解除されるという事件が生じた。これを巡り、ギュ

ル大統領またはエルドアン首相、あるいは誰が警察にバリケード解除命令を行ったのが議論されている。

#### 【参考論調】

(1) 29日の大統領公邸における祝賀記念レセプションでは、エルドアン首相は自分は命令していないと発言。ギュル大統領はアフメット・セヴェル大統領報道官が知っているとし、セヴェル大統領報道官は29日になる数日前に、ギュル大統領がアンカラ県知事に対して29日に市民との間で緊張が高まるようなことになれば、柔軟に対応せよと話していたと発言。判明したことは、誰も命令を下したわけではないにも関わらず、「両頭体制」の議論が巻き起こっているということである(11月1日付 Fikret Bila 氏、M紙)。

(2) 29日のアンカラの警察のバリケード解除事件後の祝賀記念レセプションにおいて、エルドアン首相自身は命令を下していないとし、ギュル大統領及びアンカラ県知事が命令したとも聞いておらず、ギュル大統領が命令したとも思わないと発言。ギュル大統領とエルドアン首相の二者間の論争がこれほど明らかに議論されたのは初めて。エルドアン首相がすぐにシャーヒン内務大臣に電話をかけて事実を確認しないことは全くもって奇妙(11月1日付 Melih Aşık 氏、M紙)。

#### ●トルコの出生率鈍化、1.9に

トルコ保健省が行った調査(2012年4月～5月、12万1446人の女性対象)では、トルコの出生率は1.9に低下した。統計庁(TÜİK)の予測では2025年に出生率が2以下になり、2019年に人口は約8100万人になるとしていたが、既に始まった出生率の鈍化により右人口数に達するのは困難。2040年以降には人口の減少が始まるとみられる(ハジエテペ大学イスマット・コチ教授談)。(10月28日付 Z紙)

年	出生率
1940～50年代	6,9
2001年	2,37
2011年	2,02
2012年	1,9

#### ●エルドアン首相のドイツ訪問

在ベルリン・在トルコ大使館開館式のためにドイツを訪問したエルドアン首相は、メルケル独首相と1時間半の二者会談を実施。EU・トルコ関係、シリア、中東和平問題、テロ問題等について協議。エルドアン首相はトルコのEU加盟については、「トルコのEU加盟に向けたEU側の明確な姿勢を待ち望んでいる」とし、サルコジ前仏大統領時代にトルコが冷遇されてきたことを挙げてEUを批判。メルケル独首相は、不一致の事項があるにもかかわらず、EUとトルコの二者関係は良好であって、「EUは正しいパートナー」であると発言(11月1日付 M紙)。

#### ●オルハン・パムック氏に仏レジオンドヌール勲章

ノーベル文学賞受賞作家のオルハン・パムック氏に対し、フランス政府からレジオンドヌール勲章が贈られた。パムック氏は授賞式で、トルコ・フランス関係に言及し、「オスマン帝国とトルコの政治の西洋化モデルはフランスだったと言及。オレリー・フィリペッティ・フランス文化・通信大臣は、パムック氏の書籍は多言語に翻訳され、何百万人もの読者に読まれていると誉めた(10月30日付 H紙)。

#### ●第25回東京国際映画祭でネスリハン・アタギュルに主演女優賞

金蘭映画祭にて2度の「有望女優賞」を受賞しているネスリハン・アタギュルに、東京国際映画祭から「最優秀女優賞」が贈られた。イエシム・ウスタオール監督の映画『天と地の間のどこか(Araf)』が、アジア最大の映画祭の一つである東京国際映画祭のコンペティションにて上映され、主演女優のネスリハン・アタギュルは同映画祭の「最優秀女優賞」に選ばれた。東京国際映画祭より「最優秀女優賞」を贈られたアタギュルは、金蘭映画祭からも2度の「有望女優賞」を受賞している(10月28日付 H紙)

## 2. 経済

#### ●証券取引所 Borsa Istanbul を創設

18日、トルコ国会の計画・予算委員会は、現在の証券取引所と金取引所を廃止し、代わりに株式会社形態の Borsa Istanbul を設立することを内容とする法案を可決した。関連大臣の承認を得た場合、6ヶ月以内に施行される。(10月19日付 H紙 11面)

#### ●証券取引所経由の投資額は9ヶ月で39億ドル

トルコ投資家関係協会(TUYID)は、2012年1～9月の証券取引所取扱総額が39億ドルであり、その内訳は33%が米国系投資ファンド、22%が英国系投資ファンド。(10月19日付 HD紙 11面)

#### ●イスタンブール製品の輸出割合は45%ではなく24%

経済省の調査によると、輸出品の最終輸出地による分類ではイスタンブールはトルコの45%を占めるが、最終輸出地ではなく商品生産地による分類を行った場合、イスタンブールの割合は24%に減少することが分かった。ただし、それでもイスタンブールはトルコ内で第一位(10月22日付 HT紙 8面)。

#### ●アククユ原子力発電所第一ブロック建設完了は2019年

アククユに建設が予定されている原子力発電所の発電第一ブロックの建設は2019年に完了し、その後毎年1ブロックの建設が完了。各ブロックの発電量は1200MW(10月21日付 H紙 23面)。

#### ●トルコ長者番付発表

エコノミスト誌は、例年行っているトルコ長者番付100名の2012年版を発表。第一位は、コチ家で推定資産総額は70～80億ドル。第二位はシャヘンク家(ドウシュ財閥)、第三位はユルケル家(ユルドゥズ財閥)、第四位はエロル・サバンジュ家(サバンジュ財閥のサバンジュ家の一つ)。(10月21日付 H紙 13面)

#### ●BSEC 租税フォーラムを11月にアンタリヤで開催

黒海経済協力機構(BSEC)の議長国を務めているトルコは、租税に関するフォーラムを11月にアンタリヤで開催。同フォーラムでは国際的な課税の分野においてベスト・プラクティスが議論される。(10月22日付 H紙 15面)

#### ●アゼルバイジャン産ガスの輸入を増加へ

10月20日より、アゼルバイジャンは対トルコ・ガス輸出量を50%増加送ガスした。これは、19日のPKKの攻撃によるイラン・トルコ間ガス・パイプラインの機能停止に伴う措置。トルコは19日、ロシアに対してもガス供給量の増加を要請した(10月22日付 HD紙 5面)。

#### ●ギリシャの観光客誘致によりトルコへの観光客が10万人減の可能性

ギリシャは今夏、トルコ人観光客のエーゲ海諸島誘致のため、査証発給措置を簡略化したが、経済危機対策の一環として今度はロシア人観光客に対し、空港で査証を発給する措置を開始。この結果、トルコは10万人の観光客を失う可能性がある（10月23日付HT紙12面）。

#### ●トルコ航空、2017年までに航空機15機を購入

トルコ航空は、ボーイング社から2017年までに航空機777-300ERを合計15機購入することを決定。費用は15機で40億ドル前後。同社は、エアバス社からもA330-300航空機を2016年までに15機購入することを決定していた（10月23日付HT紙10面）。

#### ●トルコの47県で輸出が増加

1～8月までの県別輸出額では、1位がイスタンブールで473億ドル。続いて、イズミル91億ドル、コジャエリ83億ドル、ブルサ72億ドル。前年同期比では47県で増加し33県で減少。トゥンジェリ県は輸出額が零。（27日付M紙12面）

#### ●シリアへの電力輸出再開

先般輸出が停止したシリアへの電力供給が犠牲祭後に再開される。輸出量は23億キロワット時。なお、電力輸出企業であるAKSA社の幹部は、先般の輸出停止措置はシリアの航空機強制着陸事件とは無関係のものであると述べた（28日付H紙9面）

#### ●銀行預金総額7250億リラの半数は0.1%の口座

銀行監督庁（BDDK）によると、トルコの銀行の国内・国外口座の預金総額は5,264万4000口座で7,251億9300万リラ。このうち47.2%が1億リラ以上の口座5万2000口座に係るもの（28日付M紙10面）

#### ●旅行者数は増加、旅行収入は減少

トルコ統計庁は、7～9月期のトルコ旅行者数が1,555万2,120人で前年同期比3.7%増加、旅行収入は89億5738万ドルで前年同期比4.1%減少したと発表（30日付V紙インターネット版）。

#### ●中央銀行の外貨準備高が史上最高

中央銀行の外貨準備高は、8月の1,080億ドルから9月の1,120億ドルに増加し、史上最高値を昂進（30日付M紙インターネット版）

#### ●国際直接投資が減少、外国人不動産購入は増加

1～8月期の国際直接投資額は、前年同期比11.8%減少の95億8,700万ドル。外国人による不動産購入は前年同期比10.2%増の15億6,300万ドル。（30日付HT紙8面）

#### ●アルメニアの原子力発電所の使用期間を10年延長

10月18日、アルメニア政府は、トルコ国境から16キロのメトスモール（Metsmor）にある原子力発電所の使用期間を10年延長して2023年までとすることを決定。同原子力発電所は、ソ連時代の1979年に完成し1998年の地震を契機に使用停止し、アルメニア独立後の1995年に使用が再開されたものだが、2013年に使用期間が終了するところであった。（30日付H紙9面）

#### ●明2013年の地方自治体関連予算は地方統一選挙実施のため支出増

2013年の地方自治体関連予算は、統一地方選挙実施のため支出が今年に較べて91億リラ増の605億リラとなる。収入は593億リラのため、12億リラの赤字が予想される（30日付H紙10面）。

#### ●イスタンブール第三空港の場所が確定

トプバシュ・大イスタンブール市長は、第三空港の建設場所はイスタンブール市北西の黒海沿岸であるTerkos湖

近辺になる、収容可能客数は当初で1億名、最終的に1億5千万名を想定すると述べた。なお、現在のアタチュルク国際空港およびサビハギョクチェン国際空港の利用客数は1日当たりで各々11万4千、6万1千名。（10月31日付H紙10面）。

#### ●株式市場が最高値を記録

イスタンブール証券取引所の10月29日に1.43ポイント増の71.716ポイント、30日には更に72.528ポイントとなり、史上最高値を記録。この背景には、ガランティ銀行の純益が予想以上であったことが影響したと専門家は分析。また、格付会社Fitchが11月8日にトルコの格付を上げるのではないかと期待感があることも原因とする専門家もいる（11月1日付H紙8面）

#### ●オートショウが開幕

2年に1回開催される自動車ショウが本年も11月2～11日にTUYAP展示会場で開催される。45ブランド500車種が展示される。開幕式にはチャラヤン経済大臣、エルギン産業科学技術大臣が出席予定（11月1日付M紙インターネット版）。

#### ●論説：トルコはマネーロンダリングに真剣に取り組め

トルコは、マネーロンダリング対策を任務とする国際機関FATFの原加盟国（36カ国）に連なるが、同機関から指定されているマネロン対策（立法措置、資産差押等の適用措置）を行っていない。明年2月までに必要な対策をとらない場合はFATFから除名される。仮に除名された場合、イランや北朝鮮に対すると同様の措置がとられることとなり、資本移動や貿易に対する制裁措置がとられることとなるのだが、トルコ政府は真剣に考えていない（11月1日付TD紙7面）。

#### ●トルコからの金輸出が増加

9月のトルコの輸出は前年同月比21%増の130億ドルで、ア首連などに対する金輸出の急増が原因。他方、9月のトルコの輸入は前年同月比6.4%減の198億ドル。（11月1日付TD紙11面）。

### 3. 治安

#### ●トルコ軍によるシリア国境での訓練

18日トルコ軍は、シリア国境のシャンルウルフアにおいて軍の訓練を実施した。訓練は戦車の能力を見るもので、シリア側の都市アレppoからも確認できる場所で実施された。（10月19日付C紙8面）

#### ●治安当局による対PKK作戦等

トルコ治安当局は、18日トルコ南東部ハッキヤリ県において、対PKK作戦を実施し、PKKテロリスト12名を殺害したと発表。同南東部ビトリス県では、道路に設置されていた約30kgの爆弾が無害化された。

18日夜トルコ東部アール県において、PKKがイランからトルコ国内に設置されている天然ガスパイプラインを攻撃し、28名の兵士が負傷。（10月19日付AFP）

19日トルコ南東部ハッキヤリ県において、対PKK作戦を実行中に警察特殊部隊員3名とPKKメンバー3名が死亡。（10月19日付AA、TZインターネット版）

注：国防大臣は正式な国会答弁の場において、1984年から2012年6月8日までのPKKとの戦闘で兵士6,169名が死亡し、4,008名が負傷したと述べた。（7月11日付AA）

22日午前1時30分頃、PKK支援者と思料される集団によってヴァン県にある学校が焼燬される事件が発生。過去2週間の間にトルコ南東部で20以上の学校が被害にあって

いる。(10月22日付 DN インターネット版、10月23日 TZ インターネット版)

23日トゥンジェリ県で PKK と治安部隊との間で武力衝突が発生し、PKK メンバー4名が殺害された。(10月24日付 Z インターネット版)

28日シュルナク県で PKK が複数の警察施設と検問所を襲撃し警察官1名が死亡。(10月28日付 Z インターネット版)

30日午後6時頃、トゥンゼリ県で、PKK が設置した地雷により2名の民間人が死亡した。(11月1日付 H 紙6面)

31日ハッキヤリ県で、PKK がハッキヤリ大学を襲撃、警官隊と衝突。また、同県の別の小学校 (Fatih Sultan Mehmet Primary school) へ火炎瓶を投擲し、当該小学校は一時的に閉鎖された。(11月1日付 Z インターネット版)

#### ●大イスタンブール市内でマグニチュード3.8の地震発生

19日午前11時47分、大イスタンブール市ブユックチェクメジェ市深さ13.2kmを震源とするマグニチュード3.8の地震が発生した。地震の専門家達は、この程度の揺れはマルマラ海では驚くべくことではないが、現在の技術では正確な日時を予測することは不可能である、また、2029年までにイスタンブールで発生するであろうマグニチュード5.5または5.7以上の大地震を予測することは不可能であると述べている。(10月19日付 DN インターネット版)

#### ●ブルサ、アンタルヤ及びヴァンで地震発生

26日、ブルサでマグニチュード4.0、アンタルヤでマグニチュード4.1の地震が発生したが被害無し。(10月26日付 DN インターネット版) また、29日にヴァンでマグニチュード3.7の地震が発生。(10月29日付 AA)

#### ●コンヤ県でオーストリア人ビジネスマンの射殺死体が発見

コンヤ県で畜産経営業のオーストリア人ビジネスマンが、トルコ人の共同経営者とともに草むらの中で射殺死体となって発見された。このオーストリア人は10月18日以降行方不明となっていた。(10月21日付 DA)

#### ●米軍とイスラエル軍が共同軍事演習

22日、米軍とイスラエル軍は、イスラエル国内で三週間に及び過去最大規模の共同軍事演習を実施する。イラン核問題と米大統領選挙を意識したともと思われる。(10月22日付 C 紙7面)

#### ●国防省とトルコ航空間で兵士移送業務締結

陸路移動中の兵士を対象とした PKK による攻撃回避のために、国防省とトルコ航空は年間1,200万トルコリラで兵士移送業務を行うことで合意に達した。(10月23日付 H 紙26面)

#### ●ロシア艦隊船がチャナッカレを南下

ロシア艦隊船 PM-56がマルマラ海からチャナッカレを通過し南下した。最終目的地は不明。(10月23日付 H 紙9面)

#### ●大イスタンブール市内で2件の爆弾事件が発生

26日にバクルキョイにあるメトロバスの停留所に覆面をした3名が音響爆弾を3発投擲して爆発させ、一時 E-5 とメトロバスの通行が禁止された。(10月26日付 CA)

29日、スルタンガジィー市所在の個人宅に不審物件が置かれているのを家人が発見し警察に通報した。警察による調査の結果、音響爆弾と判明した。(10月30日付 Z 紙26面)

#### ●シリア側から砲弾2発がハタイ県に着弾

23日、シリア側から発射された対空砲弾がハタイ県に着弾。損害なし。(10月23日付 Z 紙インターネット版) 29日にも迫撃砲弾が着弾したことからトルコ軍は直ちに応戦した。(10月29日付 Z 紙インターネット版)

## 4. 社会

### ●イスタンブール市が勤務時間を変更

イスタンブール知事オフィスは、10月30日から勤務時間を午前8:00~午後16:30の間になると声明を発表。日中の光を有効利用し、エネルギーの使用量を減少させる為、また交通渋滞を緩和するために行う。(イスタンブール県庁HPにも同様の記載あり)(10月19日付 H 紙1及び11面)

●イスタンブール・ハイウェイを閉鎖する事故で交通渋滞  
イスタンブールの TEM ハイウェイ上で、18日午前8:00、トラックによる大きな交通事故が発生。TEM ハイウェイ上に最大16キロの渋滞が発生。(10月19日付 H 紙1及び7面)

[関連記事] 国家ハイウェイ総局によると、ボスポラス大橋の1日の適正量は25万台であるにもかかわらず、現状は60万台が通行。また、平均所要時間は45分~1時間かかっている。(10月19日付 DN 紙6面)

### ●イスタンブール・フェリー・ライン論争が加熱

イスタンブールにおける海上バスおよび高速フェリー会社 (İDO) とその新しいライバル (Negmar 海上輸送会社) の間の緊迫した対立は熱くなっている。Negmar は10月25日から Topcular - Eskihisar 間の運行を開始すると発表。但し、İDO 側によるといくつか必要な許可 (コジャエリ市役所、運輸省) が未取得であるかもしれないとのことあるとの由。場合によっては法廷での論争になる可能性もある。(11月21日付 HD 紙インターネット版)

### ●犠牲祭から共和国記念日中は橋や高速道路が無料

副首相アリ・ババジャン (Ali Babacan) は、犠牲祭と共和国記念日中に橋や高速道路が無料であることを発表。これは23日の夜中から始まって10月30日午前07:00まで続く。(10月23日付 C 紙9面)

### ●家屋物価指数の発表

トルコにおける家屋物価指数 (the housing price index: HPI) は28%増加。過去2年半において消費者物価指数 (CPI) は17%の増加、生産者物価指数 (PPI) は22%の増加。

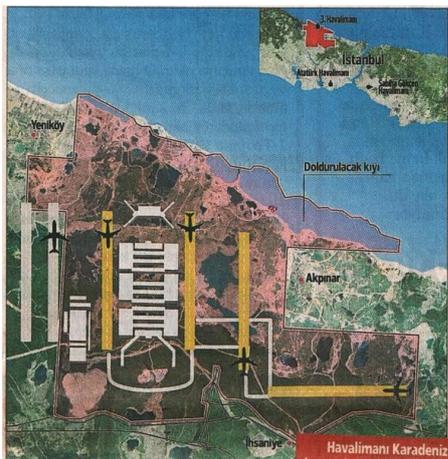
地域別ではイスタンブールが27%増加、イズミルが26%増加、アンカラ Ankara は20%増加であった。(11月23日付 TZ 紙7面)

### ●政府が輸送のためにお金をはらいます。

「環境と都市計画」省は、都市再開発計画地区にとどまっている人々を助けるために、1,000TL の再配置援助をおこなう用意があると発表。Esenler (エセンレル) 地区は、この援助プロジェクトに関して宣言された地域の最初の地区となった。(10月30日付 S 紙1面及び8面)

### ●Kağıthane (キヤートハーネ) に地下鉄が

カディル・トプバシュ (Kadir Topbaş) 大イスタンブール市長は10月30日、キヤートハーネ市役所で記者会見を開き、1~2ヶ月以内にキヤートハーネによる地下鉄ラインの入札を行うと発言。彼はまた、イスタンブールで建設される予定の第三番目の国際歳空港の場所について、Terkos (テルコス) 湖に近い場所であることを発表。(10月31日付 H 紙23面)



●タクシム広場の歩行者専用道路化プロジェクト関連

タクシム広場の歩行者専用道路化プロジェクトについて最初の探掘が始まった。Tarlabaşı（タルラバシュ）とHarbiye（ハルビエ）の間に建設される地下トンネルのための工事 [工事の障害となる既存のインフラは移管等の移設工事] が開始。(10月31日付C紙3面)

[関連記事] タクシム広場への歩行者専用道路化プロジェクトに関連し、Cumhuriyet(ジウムフリエット)通りは、11月5日月曜日からタルラバシュにある駐車場からDivan(ディヴァン)ホテルの前まで 240日間通行止めになる。道路工事中交通の中断を防ぐために新路線が決定され。それに

よると、①タルラバシュからハルビエ 方向へ、②Mete (メテ) 通り Asker Ocagı (アスケルオジャウ) 通り、③ジウムフリエット 通りディヴァンホテルの前からまたはハルビエ からタルラバシュ 方向へジウムフリエット 通りディヴァンホテルの前からと Abdulhakhamit(アブドウルハックハミット) 通りとなる。(11月01日付S紙28面) (11月01日付H紙 9面) (11月01日付P紙18面)



注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		エージェント	
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	HE	Anadolu News Agency	AA
Hürriyet	H	The Daily News	DN	Agence France Presse	AFP
Vatan	V	Economist	EC	Cihan News Agency	CA
Akşam	A	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M	Hürriyet Daily News	HD	Ihlas News Agency	IA
Sabah	S				
Radikal	R				
Zaman	Z				
Posta	P				
Haberturk	HT				

在イスタンブール日本国総領事館

電話：212-317-4600

FAX：212-317-4604

E-Mail: istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB: [http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index\\_j.html](http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index_j.html)

facebook: <http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu>

●トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。

●新規で配信をご希望の方、配信を希望されない方は、お手数ですが以下のメールアドレスにご連絡ください。  
[istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)

●総領事館のお知らせ

1. 11月の行事予定

★船曳健夫 東京大学大学院名誉教授（文化人類学）による講演会

講演テーマ：「日本人とは何かー東日本大震災時に日本人はどう動いたかー」

日時：11月7日（水）16～18時

場所：ボアジチ大学文理学部校舎 TB490（南キャンパス）

言語：英語

共催：ボアジチ大学、日本研究学会

入場自由・無料